

## “黒ボコ岩が落ちてきたらどうしよう”

山下 光信

砂防新道を甚之助避難小屋・分岐・十二曲がりと登っていくと弥陀ヶ原の門番のように黒ボコ岩が見えてきます。途中、とってもおいしい延命水をガブガブ飲んで一休みしたいところですが、小心者の私は最近ゆっくりそれを飲めなくなってしまいました。それは「昭和36年の地震で黒ボコ岩が落ちた」と聞いてしまったからです。

### “北美濃地震 白山ゆれる”

昭和36年8月19日14時33分頃に石川・福井・岐阜の県境を中心に、北陸・東海・近畿地方の広い地域でかなり強い震動があった。

この地震は「北美濃地震」と命名された。震源地は石徹白付近、地震の規模を示すマグニチュードは7.0（阪神大震災は7.2）で福井地震とほぼ同程度のものでした。しかし、山岳部が主要地域をしめていたため比較的被害が少なかった。

新聞記事によると「白山では落石などのため4人が死亡、8人が重軽傷、登山中の102人は室堂に避難した」となっています。

各地の震度は、震度4：福井・名古屋、震度3：金沢・輪島・富山・岐阜・長野・京都となっていますが、白山付近では黒ボコ岩が落ちたことから考えると、震度5強以上ではないかと考えられます。



今年の夏山シーズンはもう終わってしまいましたが、私の頭の中には、延命水の所で「この水うまいぞ〜、長生きできるぞ」と、何杯もおいしそうに飲んでいる人たちが目に浮かびます。でも、

私はいくらおいしい水と言われようが、長生きできるぞと言われようが、コップ1杯だけさっと飲むだけにして、今にも転げ落ちてきそうな黒ボコ岩を上目づかいで見ながら静かに足音も立てず、弥陀ヶ原まで登ろうと思っています。

十二曲がり付近は、雨の日や風の強い日、地震の時は、延命水をゆっくり飲むよりも落石に十分注意した方が長生きできそうです。皆さんも決して飲みすぎず、さっさと弥陀ヶ原まで登ったらどうでしょうか……。

---小心者のひとりごと---

